

平成29年9月 / 日

あきる野市議会議長 殿

会 派 名 公明党

代表者名 増崎 俊宏

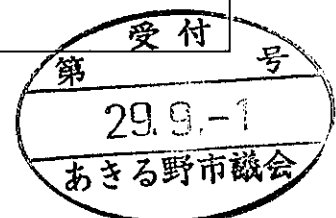


会派の（調査研究・**研修**）報告書

このことについて、下記のとおり実施したので報告します。

記

1 調査研究または 研修実施日	平成29年8月2日（水）14：00～16：40
2 調査研究または 研修の場所	日本公認会計士協会地下1階ホール（千代田区九段南4-4-1）
3 調査研究事項 または研修名	●公会計協議会主催セミナー 「公会計財務書類の新たな活用方策」～財務情報の更なる開示 と効率的な行財政運営に向けて
4 参加者氏名 （ 2 名）	増崎 俊宏 田中千代子
5 調査研究または 研修の概要及び 感想等	別紙のとおり



【概 要】

【次第】

1. 開会挨拶 梶川 融 氏 (公会計協議会 会長)

2. 来賓挨拶 黒田 武一郎 氏 (総務省自治財政局長)

3. 基調講演 「地方財政を巡る諸課題と地方公会計の推進について」

山越 伸子 氏 (総務省自治財政局財務調査課長)

4. パネルディスカッション

「公会計財務書類の新たな活用方策と公認会計士の役割」

パネリスト：伊澤 賢司 氏 (日本公認会計士協会 公会計委員会 地方公会計・監査検討専門部会長)

高橋 啓介 氏 (財務省主計局法規課公会計室 課長補佐)

宮澤 正泰 氏 (習志野市 会計管理者)

山浦 久司 氏 (明治大学専門職大学院 会計専門職研究科 教授)

コーディネーター：川口 雅也 (日本公認会計士協会 公会計担当研究員)

5. 閉会挨拶 山田 治彦 氏 (公会計協議会 副会長)

【感想等】

来年(平成30年3月)までに統一的基準による財務諸表の作成をとの国の要請に応える形で、これまで各自治体が固定資産台帳の整備や総務省から無償提供されたソフトの導入及び研修などを実施してきている。

行政が着実に新公会計制度導入を進めている中、議員も学ばなければ行政の監視・チェック機能としての役割を果たすことはできない。また、複式簿記・発生主義の新しい公会計制度をどう生かしていくかを学びたいと思い、受講させていただいた。

分析の視点(例：資産形成度、将来世代に残る資産はどのくらいあるか)と活用指標(例：住民一人当たり資産額)などのレクチャーは大変参考になった。財政状況を分析するにあたり重要なのはバランスシートだと考えているので、今後に生かせると思う。

マクロ的視点での活用としては、有形固定資産減価償却率を把握し、公共施設等のマネジメントに活用することは私も議会で提案していたところであるが、具体的には施設更新必要額の推計と財源の確保や負担平準化を計画的に図るための根拠を示せること等が挙げられていた。

今後の議員活動に生かせるセミナーであったと考えている。さらに感じたのは、公認会計士の活用と市民への公会計の理解促進である。パネルディスカッションで、習志野市の会計管理者が参加されていたが、習志野市では公認会計士の方が市民に対し、市の財政状況について説明する機会を設けていて、行政職員が説明するよりも客観的で、かつ専門的であり説得力がある。この取り組みは是非、本市においても取り組んでほしいと切に願うところである。また、市民に対する理解促進策として、複式簿記・発生主義の考え方をレクチャーする機会などを設けることも必要なのではないかと考える。より多くの市民の皆様に、行財政運営を理解し、協力していただく上で、今後必要になってくるのではないかと考える。

現役の公認会計士、地方公共団体職員、地方議員が対象だったようで、会場は人で溢れ、急遽、別会場も設置するほどであった。当初予定で 100 名と聞いていたが、主催者によれば 300 名超とであったようだ。関心の高さが伺えた。

[illegible]